

2020年「重点指導事項」

日本高等学校野球連盟
審判規則委員会

「フェアプレイ」と「スピードアップ」

今年はいよいよ日本で東京五輪・パラリンピックが開催されます。ピエール・ド・クーベルタンが提唱したオリンピズムは友情・連帯感・フェアプレイです。これは高校野球の3つの「F」とも重なり、試合において「フェアプレイ」は、いつの時代も不変の理念です。

昨年、平成最後の全国大会で「サイン盗み疑惑」が大騒動となりましたが、元号が「令和」に変わり根絶しなければなりません。海の向こうメジャーリーグでも、アストロズの「サイン盗み」が大問題になっています。そのアメリカOBR (Official Baseball Rules)における新設・改正項目は近年、申告故意四球の採用、準備投球[8球][1分]の削除、マウンドに行く回数の制限・短縮とスピードアップに関するものが連続しています。また、昨年行われたプレミア12大会でも投球間隔やイニング間隔等で時間制限が厳格に規定されていました。

高校野球はもとより、スピーディーな試合の進行を常に意識してきましたが、ここ数年試合時間が長くなりつつあります。

そこで今年は特に、「フェアプレイ」・「スピードアップ」を強く意識した指導、徹底をお願いします。下記項目は中でも特段の注意を払いましょう。

1. 正しい投球動作 5.07 (a) (1) (2)

2018年から他団体がいわゆる2段モーションの緩和（走者なし）を実施した際、高校野球では、正しい投球動作（スムーズな投球動作）の励行・徹底が重要であるとして、高校野球特別規則28を制定して（今年からは27）、「**従来通り**」としました。今後も、いわゆる2段モーションの規制がなくなっても「**従来通り**」の運用として、中断（投球動作中に一時停止）と認めれば、指導及び規則適用していきます。

2. バッテリー間のスピードアップ 5.07 (c) (1) (2)

投球を受けた捕手は、速やかに投手に返球しましょう。また、これを受けた投手はただちに投手板を踏んで、投球位置につきましょう。

3. 正しい捕手の位置 定義17 5.02 (a) 6.02 (a) (12)

捕手はホームプレートの直後に位置しましょう。

4. 捕手のフレーミング

マナーとして、投球を受けた捕手が“ボール”をストライクに見せようとする意図でキャッチャーミットを動かしたり、球審のコールを待たず自分でストライクと判断して次の行動に移ろうとしたりする行為は止めましょう。

5. 打者の義務 5.04 (b) (1)

打者は打順がきたら、速やかにバッタースボックスに入って、打撃姿勢をとりましょう。

6. 打者がヒットバイピッチ(死球)を得るために投球から避けない行為 5.05 (b) (2)

投球を避ける動作のないもの、及びエルボーガードを投球に対して突き出す行為は止めましょう。

以上